

事業所の概要表

(令和元年10月1日現在)

事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条					
法人名	有限会社コミュニティーハウス					
所在地	愛媛県松山市北条588番地3					
電話番号	089-993-9390					
FAX番号	089-993-9390					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 14 年 3 月 26 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 2 ) 階建て ( 1・2 ) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	16 名 ( 男性 4 人 女性 12 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	8 名	要介護2	2 名
	要介護3	2 名	要介護4	2 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満 4 人	
	5~10年未満	4 人	10年以上	5 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 6 人			
	その他 ( 社会福祉士・精神保健福祉士・ヘルパー2級 )					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	田辺医院・内田クリニック・北条病院・かとう歯科					
看取りの体制(開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 27 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	35,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,200 円	朝食:	円	昼食:	円
	おやつ:	0 円	夕食:	円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )					
その他の費用	水道光熱費	300/日	円			
	共益費	5,000/日	円			
	おむつ代	実費	円			
	理美容台	自己負担	円			

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 2 回) ※過去1年間					
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間					
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間				
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者		
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民		
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等		
	<input type="checkbox"/> その他 ( )					

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年10月30日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	9	(依頼数)	16
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3871100230
事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条
(ユニット名)	1階・2階 合同
記入者(管理者)	
氏名	久保田 達也
自己評価作成日	令和元年 10月 1日

<b>【事業所理念】※事業所記入</b> 私たちは、利用者にとって良きパートナーとなり、その方個人個人の人生を振り返り尊重し、共に、笑い、泣き、怒り、悲しめる存在である様に、利用者と共に生きていきます。私たちは、利用者の自立性を大切に地域と共に利用者が当たり前に暮らせる社会づくりに取り組みます。	<b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> ①家族様との関係 ・毎月家族様に近況報告の手紙と写真をおくっているが行事等の参加は少ない。 ②口腔ケアが行き届いていない ・夕食後の歯磨きはできているが、その他は徹底できていない。管理者は声掛けを続けている。 ③会議に参加できていない職員に正確に伝えられていない ・出勤簿の横に見やすいように置いてあり、押印している。閲覧しても押印してない職員には管理者が注意をしている。 ④地域との関りが弱い ・回覧板や地域の方から情報を収集している。地域会やお祭り、展覧会等参加している。また畑の事を近所の方に相談し交流を深めている。 ⑤運営推進会議に利用者・家族の参加がない ・利用者はどなたかが参加している。家族についてはお願いはするも開催日が平日の為中々出席が難しい状況である。	<b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 長寿の利用者の誕生日会の折には、利用者の食べたいものを聞いており、12月には、管理者が握り寿司を握る計画を立てている。  循環式24時間風呂を設置しており、7時～20時の間で利用者の希望するタイミングで支援することに取り組んでいる。毎日、就寝前に入る利用者が2名おり、見守りなどで支援している。就寝前に入浴することで眠れるようになり、減薬につながったケースがある。  利用者が小学校、町内の運動会に参加したり、地域の展覧会を見に行ったりできるよう支援している。
---	--	---

## 評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている    ○ほぼできている    △時々できている    ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	職員は、利用者様の日頃の会話や何気ない目線を感じ、経過記録や申し送りに記載している。またその都度、職員同士で話し合っている。	◎		○	入居時に、本人や家族から聞き取り、基本情報の「望む生活欄」に記入している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	常に職員同士で話し合い、色々な意見も出るようになり試行錯誤しながら本人様中心に考えるようにしている。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様や知人様が面会に来られた機会には積極的に伺っており、それを職員同士で共有するようにしている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	その都度、気付いた事柄を経過記録に記載するようにしている。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	フロアーミーティングで日々気付いた事をはなしあっている。また、それ以外でも適宜話し合いをしている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族様や知人様が面会に来られた時に聞いていたが、記録に残せてない場合があり職員同士で共有できてない事柄もある。			○	入居時に、本人や家族から、生活歴や育った場所、暮らした土地、職歴、趣味、特技などを聞き取り、基本情報に記入している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事はやって頂き、有する力を取り上げないよう注意している。また、フロアーミーティングで意見の交換を行っている。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	常に利用者様の顔、目線を見ており職員一人一人が意見を持って話し合うようにしている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	人間なので喜怒哀楽があり何もかも不安定がいけないとは考えない。一人の人間として利用者様と向き合い、普通の生活が出来るよう家族のように接している。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	睡眠時間、食事量、入浴等、人それぞれ違うのは当たり前だととらえており、それに対してできる限り対応できていると思う。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	検討し、実施しているが、それが本人様にとって良いのか悪いのかわからなくなる時があり、疑問に思った時は適宜、再検討するようにしている。			○	ユニットリーダーが本人、家族、主治医、訪問看護師の意見を聞いて、その情報をもとにして、月1回のフロアーミーティング(カンファレンス含む)時に、職員で検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング、職員会等で検討していると共に、職員同士普段から話し合っている。出来るだけそれを記録に残すように努力している。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ミーティング・職員会の議事録、ちょっとしたことは申し送りノート等に記載するようにしている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	アセスメントや日々のかかわりの中で得た情報を反映した内容になっていると思うがもう少し理解できるように努めていきたい。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	利用者様と家族様、協力医と適宜相談し話し合いをしているが、利用者様にとってより良い物を作成するように努めている。	◎		○	フロアーミーティング(カンファレンス含む)時に、活動意欲がある利用者について、本人のやりたいことの中でできることを話し合い、畑仕事を行えるよう支援している事例がある。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	落ち着いた生活できるように、その人らしいケアを心がけている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	職員がかかわる事がほとんどの内容になっており、現状としてはできていない。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	いつでも職員は閲覧できるようにしている。			○	介護計画書を利用者別ファイルに綴じて事務室に置いており、管理者は、職員それぞれが出勤時に計画内容を把握するよう声をかけている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録に記載しており、重複してチェック表にも毎日記載するようにしている。			○	昨年7月より、タブレット端末のケアチェック表に毎日、実践の有無を入力している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	経過記録とチェック表に個別に記載している。			△	タブレット端末の経過記録(介護記録)やケアチェック表に記録をしているが、介護計画に基づいた記録という点からは情報量が少ない。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	その都度、記録に残している。また、ミーティングやカンファレンスで話し合いをしているが、個別に記録とまではできていない。			○	フロアーミーティング(カンファレンス含む)で出された職員の気づきや工夫は、ケアプラン評価表に記録している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	○	計画期間中にカンファレンス・ミーティングを行い、見直しを行っている。			◎	各ユニットの計画作成担当者が責任を持って期間を管理している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	カンファレンスで行っている。ミーティングで意見交換をし現状確認をしている。			△	月1回のフロアミーティング(カンファレンス含む)時に、介護計画見直し間近の利用者や気になる利用者について現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	変化が生じた時は本人や家族様と相談し、計画を作成しているが、見直しが遅れる場合がある。			△	状態変化時には、本人や家族、その他関係者と見直しを行うことになっている。状態が急に変わったような場合、まずは支援を変更して実践しているが、計画の見直しが遅れるようなことがある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に一度、職員会とミーティングを行っている。緊急案件がある場合は職員を臨時招集し話し合いを行っている。			◎	月1回、全体の職員会と、フロアミーティングを行っており、それぞれ議事録を作成している。この一年間では、事故発生に伴い、職員全員参加の会議を行った。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は事務所でされており、一方的な報告・指示にならないような雰囲気作りを努め、ほかの人の意見を否定しないことを約束としている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	開催日を固定しており予定が立てやすいようにしている。勤務ではない職員には超過勤務手当を支給している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録類は出勤簿の横においてあり、閲覧した職員はサインするようになっている。				○	議事録は、出勤簿の横に設置して、閲覧した職員はサインをするしくみをつくっている。サインが揃ったかどうかは管理者が確認している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	職員は各々のアカウントでタブレットの連絡事項、申し送りを閲覧または記載できるようにしている。			◎	出勤時にタブレット端末の掲示板(申し送り内容)を確認するようになっている。職員がその内容を確認してチェックを入れると、誰が確認しているか、確認していないかが分かる。二階のユニットのみ申し送りノートを用いている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員は各々のアカウントでタブレットの連絡事項、申し送りを閲覧または記載できるようにしている。		◎			
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	体調に左右されることも多いが、朝の挨拶の際には「今日は何しようか」とご本人に伺うようになっている。表情や雰囲気でお誘いし、楽しみを見つけて頂くように支援している。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	様々な場面で常に利用者様に選んでいただくよう声掛けしている。			◎	午前中に居間で過ごす利用者には、コーヒーとお茶のどちらがよいか聞いていた。昼食時、カレーに添える福神漬は、自分で好きなだけ取れるようにテーブルに置いていた。職員が「カレーのお替りがあるよ。どうですか」と声かけをしていた。	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人ひとりと買い物に行くようになり、欲しいものを選んでいただくようになっている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	習慣や体調に合わせて一人ひとり支援している。特に入浴は毎日入りたい人、就寝前に入りたい人等その人に合わせて支援している。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	職員は利用者様の笑顔でやりがいを感じるようになってきた。その為、積極的に明るく接しているように思える。				◎	昼食が終わる頃、ユニット間でカレーの鍋を交換し、食べ比べをしていた。職員は利用者様に感想などを聞いていた。職員は会話にユーモアを交えて利用者の笑顔を引き出していた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	フロアミーティングで日々気付いた事を話しあっている。また、それ以外でも適宜話し合いをし情報を共有し支援している。					◎
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会や研修を通じて人権、尊厳について学び、職員間でも注意し合えるようになっている。	◎	○	○	法人内研修や事業所の勉強会で学んでいる。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	気を付けているが、油断や慣れから配慮を欠いてしまうことがある。排泄に関しては特に配慮が必要であり注意しているが、課題は残っているように感じる。			○	トイレへの声かけは、耳元で行い、他利用者に配慮していた。トイレの入口には、札の裏表に「もういいよ」「まだまだ」と書いて掛けており、使用中かどうかかわかるようにしている。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレにはバスタオルをひざ掛けに使うため常に置いている。入浴時も更衣の際はひざ掛けとしてバスタオルを使っている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ずノックするように心がけている。また、プライバシーの場所であるため、不要不急の訪室は控えている。				◎	管理者は、入室前に本人に許可を得ていた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会や研修にて理解し、遵守できている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	畑の作物や裁縫、歴史等教えてもらっている。その際には必ず「ありがとう」と伝えるようになっている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	共同生活をしていく上で、役割を分担しあっている事を理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	一人ひとり出来ることを役割分担し、職員はそれをつなげて行くよう支援している。				○	席順などに配慮している。昼食の際、サポートが必要な利用者の席の隣に、世話が上手な利用者が座っており、着席する時に声をかけたり、カレーに添える福神漬がいているか聞いていた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	必要時には介入させていただき、フォローも必ずしており、後腐れのないように努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族様にお伺いした内容や、ケアマネからの情報提供などを記録、確認している。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者様から伺ったり、家族様・知人様より情報を収集している。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの散髪屋さんや、以前から日課のお墓参りに出掛けている。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間は限定しておらず、いつでも来所できるようにしている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者様の表情を感じ取り、声掛けを行っている。また、利用者様に目的があり、一人で戸外に出かけられる時も止めることはせず、一緒に行ったり後からついていくようにしている。	○	△	○	計画を立てて、初詣、座敷雑見学、いちご狩り、ぶどう狩りなどに出かけられるよう支援している。希望する利用者で喫茶店や道の駅に出かけたり、コスモスを見に行ったりできるよう支援している。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていないのが現状であり課題である。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調に合わせて出来るだけ散歩や行事に参加している。			○		体調をみながら、散歩など車いすで戸外に出られるように支援している。初詣や花見、夏祭りなどの行事に参加できるよう支援をしている。またその様子を「風早のお便り」に載せている。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様とドライブへ行かれたり、夏祭り(他事業所)にも一緒に参加してくれている。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員会やミーティング、研修で理解に努めている。				洗濯物たたみ、新聞折り、着替え時のボタン掛けなど利用者のできることを行えるよう、見守りをして支援している。居室からトイレまでビニールテープで矢印を付けて、自分でトイレに行けるよう工夫しているところがあった。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	職員会や研修で理解に努めており、出来ることを止めないよう支援している。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	毎日のかかわりの中で、出来ることの範囲は理解しており、職員都合でのお手伝いはしないようにしている。また、出来ることについては日々の発見を職員同士で話し合うようにしている。	◎		◎		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本来の楽しみごととは疑問だが、少なくともグループホームで生活する上での、楽しみ方は把握している。				居間や廊下のモップがけをする、メガカの世話をする、畑でスイカや落花生を育てる、お茶会でお茶を点てるなど、それぞれが役割や出番を持てるように支援している。また、その様子を「風早のお便り」に載せている。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの気になる事、楽しみを理解し、毎日マンネリにならないように支援している。	◎	○	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現状ではできていない。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人様の好みの洋服を選んでもらうようにしている。その着用の仕方も本人様の好きにできるよう支援している。				口の周りの汚れを自分で拭けるよう、テーブルの手の届く所にティッシュを置いていた。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	特に髪型については、本人様の好きなようにしていただいている。または家族様からアドバイスをいただいている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	表情をよく観察し、本人様の立場になって考えるようにしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	各利用者様のお気に入りには把握している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人様を傷つけないよう言葉を選んで支援している。また他の人に見えないように配慮している。	◎	◎	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	昔からの行きつけの理容店がある方はそちらに行くようにしている。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	らしさを大切にするのに軽度、重度は関係なく、本人様に負担がかからないよう出来るだけ支援している。			○		季節に応じた、服装で過ごしていた。馴染みの美容室でパーマや毛染めを行う利用者には、継続できるように職員が送迎などをして支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員会や研修で理解できている。				業者が立てた献立で食材が届き、職員が交代で調理している。畑で採れた野菜を使用することもある。調査訪問時、食事前にテーブルを拭いたり、野菜を切ったり、サラダを取り分けたり、下膳したりする利用者の様子が見られた。  土用丑の日に、ウナギを食べたり、秋には庭でサンマを炭で焼き、食べたりしている。  茶碗、マグカップ、箸などは家族が準備した物を使用している。利用者の状態によっては、マグカップやスプーンなどは、軽いものを使用している。  職員はサポートしながら、同じものを一緒に食べている。ゆっくりと自分のペースで食べる利用者に、職員は、様子を見ながらサポートしていた。  居間のホワイトボードに献立を書いていた。昼食の前、利用者に「お腹すいたね。カレーはやっぱいい匂いがするね」と話していた。  月1回の給食会議時に、調理方法や利用者の希望の献立などについて、口頭で話し合っている。業者の人も参加している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立・食材発注・管理は業者に委託している。野菜を切ったり、盛り付けをしたり、お米を研いだり、利用者様と一緒にしている。それも難しい方には台ふきや味見をしていただいている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ご自分の役割と理解されている利用者様もいらっしゃる。嗜好品は利用者様と一緒に買い物に行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好き嫌いやアレルギーは把握している。日々新しい発見があり、その都度職員同士話し合っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	月に一度、給食会議を開いており、利用者様の意見をとり入れるようにしている。誕生日の月はその方の希望を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	チームで話し合っていて決めている。刻みにすると美味しそうに見えないため、切り方や盛り付けを工夫するように努力している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯飲み、箸は個人専用の物を使用している。重さや形等、使いやすい物にしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	必ず一緒に食べるようにしており表情などを感じ、さりげなく支援するようにしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音やにおいが感じられる場所に居室があり、訪室しては食事の話をしている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの食事は把握している。食事量・水分量は記録しており、確認しながら支援している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	なぜ食べないのか、なぜ飲まないのかを体調も含め、職員同士話し合い、考え、工夫して支援している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	月に一度給食会議で話し合い、調理方法など業者に要望として伝えている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具の洗浄や高温乾燥機の使用をしている。調理器具や食器は毎日、夜勤者が消毒を行っている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員会や研修、訪問歯科医の口腔ケアで理解している。				10月に訪問歯科医のボランティアが来てくれて、利用者全員の口腔内を診てもらった。その結果は「お口の健康状態のお知らせ」で把握している。  毎食後、歯磨きを行えるよう支援している。昼食後、順番に声をかけ洗面所に誘導し、歯磨きを行えるよう支援していた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	義歯の状態については把握できているが、その他は把握できていないのが現状である。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	受診の際や訪問歯科の際、指導を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	洗浄剤を使い手入れしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。出来ない方は表情をみて出来ることを支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	その都度、家族様に相談させていただき、迅速に対応するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	職員会や研修で理解に努めている。				フロアーミーティング時にパッドの必要性について見直しているケースがある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	職員会や研修で理解に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	一人ひとりの習慣を把握しており、声掛けするようにしている。また、記録にも残して排泄について検討している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	尿意、便意がある利用者様はそれを大切にしており、日中はトイレ使用を基本としている。おむつの使用方法についても適切かどうか常に話し合っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員同士で話し合い、試行錯誤しながら支援している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録しており、表情や時間をみて早めに声掛けするようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	使用にあたるまでの経緯を家族様に説明し、本人様も交えて相談するようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	おむつを使う事があきらめにならないよう、本人様と相談しながら使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分をしっかりと摂取して頂いたり、牛乳やオリゴ糖、ヨーグルトなど便秘予防に取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	24時間の循環風呂になっており、いつでも好きな時間に入れるようになっている。	◎		◎	循環式24時間風呂を設置しており、7時～20時の間で利用者の希望するタイミングで支援することに取り組んでいる。毎日、就寝前に入る利用者が2名おり、見守りなどして支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	家庭用のお風呂なのでのんびりと入浴できている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはやって頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	決して無理強いせず、本人のタイミングを見つけると共に、細目に声掛けさせてもらっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	体調を確認しながら声掛けを行っている。入浴後は水分補給をして頂いている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が経過記録に就寝時間、起床時間を記録しており、申し送りやミーティングで情報を共有している。				就寝前に入浴することで、眠れるようになり、減薬につながったケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠れないだけで終わらず、なぜ眠れないのかを体調や日中の過ごし方を踏まえて、検討している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	最初から薬に頼る事はない。原因を検討し支援している。それでも利用者様がしんどそうな場合は看護師、医師に相談させてもらっている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	その日の体調によって支援している。また希望を優先するようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	贈り物やプレゼントを頂いたりしたときには必ず本人様から電話や手紙を書いて送るようにしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	内容はともかく、本人様が書くというプロセスを大事にしており、内容については職員が手助けすることもある。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	かかってきた場合はおつなぎしている。ご本人からの申し出がある場合においては、ご家族様に有無や時間帯の相談を行い、気兼ねなくお電話して頂ける環境づくりに努めている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	もちろん本人様にお渡ししている。返事も出来るだけするようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご家族の状況により協力を得れない場合もあるが、これらのことが出来るように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員会や研修で理解できているが、利用者様の自己管理は難しい状況である。買い物に行った際は、本人様にお金を渡し、レジで支払いをしていただいている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	職員は利用者様の嗜好品と一緒に買いに行っている。また、グループホーム分の買い物もお願いする時もある。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	出来ていないのが現状である。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族様と相談し、所持している利用者様はその範囲で自由に使っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人様や家族様と密に相談している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金規定により、方法の説明、同意を得るようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	月に一回、家族様に利用者様の様子を写真やお手紙により知らせている。遠方だが故郷のお墓参りに定期的に行かれる方もいる。	◎		◎	利用者の希望で市外の墓参りに行った際は、職員が付き添い支援した。家族旅行に出かける際には、準備を手伝った。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に玄関は開放している。花や野菜を利用者様と一緒に手入れしている。掃除は利用者様と職員の日課であり、特に表周りは注意している。	◎	○	◎	玄関前には、季節の花を植えたプランターを並べ、ベンチを置いていた。掃除が行き届いていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	玄関・リビング・階段・廊下に利用者様の作品を展示している。	◎	○	◎	廊下や玄関には、観葉植物を配置している。居間には、神棚を祀っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は利用者様と職員の日課であり、毎日している。汚物は室内に置かず、外に置くようにしている。				大きな窓から採光があり、明るい。掃除が行き届き、不快な音や匂いは感じなかった。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	洗濯物を干したり、取り込んだり利用者様と職員と一緒にしている。散歩に出掛けるとき、草引きや掃除を進んでしてくれる。取り込んだ洗濯物を置いておくといつの間にかたんでくれる。				ベランダで吊し柿を作っていた。玄関に地方製のポスターを貼っている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	一緒にパズルをしたりテレビを観たり、独りになりたい時は居室に戻られたり自由にいただいている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ドアの開閉は特に意識して行っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家具の持ち込みは自由になっている。本人の希望によって配置は適宜変えている。	◎			家具やテレビ、好みの小説、使い慣れたそろばん、化粧品や櫛などを持ち込んでいる居室が見られた。枕元に目覚まし時計を置いていたところもあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	フロアには3カ所トイレがあり、本人様の使い易いトイレを使用していただいている。				トイレには、「御手洗い」と書いた札を掛けている。居室のエアコンのリモコンのそばに、「エアコンのリモコンです」と書かれたメモを置いていたところがあった。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	各職員が気付いた事を申し送りに記載したり、その都度話し合い対応している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうき、台ふき等掃除道具は分かりやすい場所に置くようにしている。外出が好きな利用者様は外履きが分かるように常に玄関に出している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	居室はもちろん、玄関は常に扉を開けた状態にしている。その状態である事を職員は理解し、注意して利用者様の行動を意識するようにしている。	◎	◎	◎	日中、玄関に施錠はしていない。法人内研修、事業所の勉強会時に、拘束することの弊害について学んでいる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	外出傾向のある利用者様については、家族様と話し合い、そのリスクと対応を説明し、鍵などの抑制をしない事に対する同意を頂いている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	職員は常に利用者様の所在を把握している。いつもと違う様子場合は特に注意している。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートを繰り返し確認している。受診・往診の際は内容を記録し申し送りにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	些細な事でも申し送りにしている。バイタル等の数値だけでなく、「いつもと違う」を大事にしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護と契約しており、24時間連絡・相談ができ、かかりつけの病院にもいつでも相談が可能な体制となっている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様の希望をお伺いし、協力医の他に受診を希望される場合等の協力方法を説明し、必要な受診ができるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望に応じて医療機関との連携が図れる様に支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診記録を記載しており、必要に応じ家族様へ報告を行い、家族様の意向を確認するようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを作成したり、口頭でも情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	出来るだけ病院に行き情報収集や情報提供を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	日頃から連携が図れるように情報提供を行ったり、受けたりとできる関係性を大切にしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎週火曜日には往診があり、水曜日には訪問看護が来所しており、その都度相談ができています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間対応してくれている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタルサインの記録を踏まえ、普段と違う、おかしいなど感じたら些細なことでも訪問看護に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情をファイルに保存しており、職員はいつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	係が一回毎に配薬しており、職員全員で服薬確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	記録に残しておりミーティングで話し合い確認できている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	本人様の様子を観察し、おかしいな、しんどそうだなと感じたらすぐに相談できる環境を整えている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には事前確認書に記入していただいている。状態の変化にはその都度話し合いを行っている。				家族・訪問看護師・かかりつけ医・職員などで方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	全ての人と話し合い、方針を共有している。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	管理者は職員一人ひとりと話し合い、何が不安で何が出来るのかを聞くようにし説明をしている。24時間いつでも連絡ができ、すぐに駆け付ける事ができる体制を取っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	グループホームでできること・できないことを説明し、理解して頂いている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	病院・訪問看護と密に連携を図り、現状と今後起こり得る事を家族様に報告・相談させていただき検討・準備している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	出来るだけ本人様や家族様の立場になるよう努め、支援するようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修で理解できていると思うが、繰り返し学ぶようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染者が出た場合の対応や、汚染物の処理の仕方など勉強会で学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進会議やファックスで最新の情報を頂いて、回覧するようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	回覧板や学校、職員の情報なども参考にし随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	研修や訪問看護師に手洗いの方法を学んでおり、来訪者にも玄関で手指消毒を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	月に一度、家族様に利用者様の近況をお手紙と写真により知らせている。また来所の際には口頭でもお伝えしている。				家族会総会やお花見、納涼祭、誕生会の際は、手紙や口頭で案内している。  月1回、近況報告の手紙と写真や行事案内を送付している。 年4回、行事や誕生会の様子を、写真にコメントを付けた風早のお便りを作成し、閲覧できるように玄関に置いている。 今後、家族来訪時に、タブレット端末で、利用者個々の情報や、医師からの伝言などを閲覧できるようにする予定がある。  行事については、風早のお便りに載せたり、月1回の手紙で報告したりしている。 設備改修、機器の導入については報告していない。 新人職員については、家族会総会時や来訪時に口頭で紹介している。異動・退職については報告していない。  利用者の近況について、家族来訪時に声をかけて報告したり、電話で報告したりして意見や希望を聞いている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会の時間は定めておらず、24時間いつでも来所できる。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出や行事の際には家族様にお手紙や口頭で案内しているが、中々参加できていないのが現状である。	◎				
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	疎遠になっている家族様にももちろん、月に一度近況報告の写真とお手紙を送っている。	◎				
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様に「何か気になる事はないでしょうか」と伺いするようにしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人様の伝えられない気持ちを職員は理解するように努め、それを家族様にお伝えするようにしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	来訪された時や家族会で報告している。特に行事等はお手紙でも案内させてもらっている。					
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を行っているが、参加が少ないのが現状である。行事等は毎月案内しているがこちらも参加が少ないのが現状である。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	新たなリスクが感じられた場合には、その解決方法を家族様にもお伝えし、対応策を決めるようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	◎	月に一度お手紙をお出ししており、来訪時やお電話で気軽にお話できる環境を整えている。					
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	時間をかけて説明しており、理解と納得を得るようにしている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の希望がある場合には、その希望に応じられるように様々な支援を行っている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明させていただき理解され同意いただいている。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の定期総会に出席し、目的など理解して頂けるように努めている。		△		町内会に加入しており、総会に参加している。 利用者が小学校、町内の運動会に参加したり、地域の展覧会を見に行ったりできるよう支援している。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に参加しており、寄付等積極的に行っている。またホームでは積極的に挨拶するようにしている。		△			
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの方が定期的に来訪され、利用者様も楽しみにされている。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方が遊びに来てくれる。また畑のアドバイス等を積極的にしてくれている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	しっかりと挨拶するようにしており、日常的な話も増えてきた。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方々が支援してくれているが、機会があればもっと増やしていきたい。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	あまり活用できておらず今後の課題である。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	体験学習やボランティア、幼稚園や小学校からの来所があり、ホームの事を理解して頂くよう努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	人数は少ないが参加して頂いている。利用者様の参加は増えた。	○		△	利用者、区長や組長、民生委員が参加している。家族は、参加していない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	グループホームの状況、行事報告や予定を報告している。			○	行事については、写真を見てもらいながら報告している。自己評価と目標達成計画は口頭で報告した。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見や感想を頂いており、取り組みや状況を報告させてもらっている。			◎	○	市職員よりインフルエンザや食中毒に関する注意喚起があり、職員は媒体にならないよう体調管理や、消毒を行ったり予防接種を受けたりした。その取り組みを次会議時に報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	奇数月の第三木曜日と決めており、予定が立てやすいように配慮している。テーマにそっての参加メンバーを増やすなどはできていない。			○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	1階と2階の入り口に議事録を設置しており、誰でもいつでも閲覧できるようにしている。					
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に沿って日々頑張っていると感じている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関に掲示しており、面会や見学時には積極的に伝えようとしている。	○	x			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ケアの実際に関しては把握に努めている。法人内の研修は受けやすいよう年間の計画を出し参加が増えたが、法人外の研修については機会を増やしていきたい。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月の職員会の後に研修を行っており、その場で研修ノートを提出するようにしている。勤務時間外であれば必ず超過勤務手当を支給している。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	向上心が湧くよう、いろいろな取り組みを行ってくれている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、地区の連絡会にも参加している。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に職員と面談する機会を設けており、管理者からの報告によって適時必要な対応をしてきている。	◎	○	○	○	年1回、法人代表者と職員の面談がある。月1回、法人全体の職員会があり、管理者と職員数名が参加している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修・勉強会を開催して各職員の考えを意見交換し、学ぶ機会をもうけている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	職員会やミーティングで話あっている。またその場その場でも話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアが発見された場合は、発見者は管理者に報告する義務があり、管理者は代表者への報告、必要に応じて松山市へ報告することとしている。				○	職員は、不適切なケアを発見した場合は、管理者に報告することを認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	現場での様子を適宜見る機会を設けており、必要時には面談を行うようにしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修を通じ理解している。また繰り返し研修を行っている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束排除委員会を設けており、3か月に1回以上委員会を開催しはなしあっている。					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	拘束・施設等の要望は受け入れず、対応方法については話し合い理解を得ている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	現在後見人制度を利用されている利用者様があり、研修等で勉強しているが中々理解ができていないように思われる。繰り返し勉強する機会を設け理解できるように努めていきたい。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があった場合には説明や紹介ができるよう職員で研修をしている。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携が図れるように通常時に情報交換や連絡ができるように努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルを作成しており、その際には、管理者や訪問看護に連絡とれるようにしており、職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	事業所内・法人内で行っている救命救急の研修に積極的に参加し、その時の対応方法を学んでいる。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	些細な事でもヒヤリハットにまとめるよう指示しているが少ないのが現状である。報告書は必ず迅速に検討会を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングや申し送り共有し、リスクを話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアル作成しており、対応方法について検討しているが、事例がほとんどない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	事例がほとんどないが、必要な際はマニュアルに沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	対応事例がほとんどないが、その際には対応策の指示や経過を記録し、解決に至るように努めるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に参加していただいております。機会を作っている。また、事業所の相談窓口は管理者が担当している。			○	運営推進会議に参加する利用者は、機会がある。その他の利用者には、個別に訊いているようだ。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会で機会は設けている。また来所の際には要望や意見が聞ける関係性を大事にしている。	◎		△	4月の家族会総会に参加する家族は機会があるが、運営に関する意見は出ないようだ。運営推進会議に家族は参加していない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情対応についての公的窓口を玄関に提示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	代表者は頻回に現場に入り、利用者様や職員と交流の機会を作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は定期的に職員と面談する機会を設け、個人の意見を聞いている。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回、自己評価を行っており、自己点検を行っている。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	現状確認し改善できるように努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、目標計画によっては中々進捗状況・達成状況が把握できていないのが現状である。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	外部評価結果を運営推進会議で報告しているが現状ではできていない。	○	△	△	運営推進会議時に、自己評価と目標達成計画は口頭で報告した。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	全ての職員とまではできていない。各フロアーリーダーとは適宜話し合っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアル作成している。自主的に防災指導も受けている。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間・日中でできているが全ての災害に対応した訓練はできていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者により設備点検を定期的実施している。保管物に関しては賞味期限を記載し確認を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	合同の訓練は出来てないが、消防署の立ち合いによる避難訓練を運営推進会議の後に開催するようにしており出席者は参加していただいている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の防災訓練に可能な限り参加するように努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 した 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で地域の方々に発信はしているが、不足していると感じられる。				電話などで、入居相談はあるが、主体的な相談支援の取り組みは行っていない。 地域の人とかかわる機会を捉えて、相談支援に取り組んでほしい。  中学生の福祉体験学習の場を提供している。 大学生のボランティアを受け入れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方から相談の電話や来所があるが件数は少ない。積極的にできるようにしていきたい。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	秋祭り等、休憩場所として活用して頂いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	申し込みがあればボランティアや体験学習の受け入れを積極的にしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	中学生の体験学習や大学生のボランティアを受け入れている。			△	